



神奈川県から移住 ブドウ農家を目指す 斉藤 元さん(東一宮)

神奈川県出身。学校卒業後、地元の会社で12年間勤務する。4年前、東京で開催していた就農相談会で岡山県北部のブドウ栽培に興味を持ち、津山市の土地と人に惹かれ移住を決意。ブドウ農家として安定経営を目指している。45歳。

空気がきれいな所で、働きたい

「大学卒業後、神奈川県内の化学合成会社に勤務しました。勤務して10年を過ぎた頃、室内での仕事に限界を感じ、空気のきれいな所で、体を動かす仕事に就きたいと思い始めました」と話す斉藤さん。地元の1日農業体験に参加したことがきっかけで、就農を考え始めたそうです。「元々化学が好きで、土壌のpH調整など、化学と農業の共通点を感じ、農業の仕事に就きたいと思うようになりました。4年前に東京で開催した就農相談会に参加し、岡山県は気候が良く、農業に最適な地と感じました。相談員から、農業が未経験でも、岡山県にはブドウ栽培で安定経営している人がいると聞きまし

滞在先の農家に、感銘を受けた

「ブドウ栽培は、寒暖の差で色づきが良くなる県北地域で体験したい思いから2日間かけて巡り、半日滞在した津山で、収穫を手伝いました。津山のブドウ農家は、農業のことを知らないわたし

にも、栽培方法や質問に丁寧に答えてくれて、感銘を受けました」。その後もブドウ農家と連絡を取り、2回の滞在経験を経て、津山市に移住を決意。2019年8月からJA晴れの国岡山津山ぶどう部会で2年間の研修に入ります。「研修先の部会の皆さんは親切で、栽培のノウハウを聞くことができました。一緒に獣害被害を防いだり、出荷で忙しい時は共同で作業したりしました。同じ関東からの移住者もいて、今も心の支えになっています」。

津山の魅力、土地と人の穏やかさ

2021年7月に2年間の研修を終え、4年後の安定経営を目指します。「研修期間中から農地を探し、今では4反の農地を確保できました。ブドウ棚を自分で作ることや、新しいブドウの栽培などに挑戦しています。津山の気候と水でおいしいブドウを作りたい」と将来を見据えます。

「津山の土地の穏やかさと、津山の人のやさしさに魅力を感じています。農作業中に手を休め、遠くの山並みを見続けてしまつことがあります。津山に来て、毎日が充実しています」と笑顔で語りました。



広報担当3年目にして、初めてのござまつりの取材。ござばやしが始まると、「ついにまつりが戻ってきた!」と胸が熱くなり、緊張が吹き飛びました。楽しみにしていた2日目の花火も、河川敷のにぎわいとともに見事な写真に収めることができ、大満足。来年に向け、さらに腕を磨いていきます! (※)

待ちに待った3年ぶりのござまつり! 踊り連の皆さんの素敵な笑顔と踊りに、夢中でシャッターを押し続け、気付くと千枚超え…。大雨でびしょ濡れの体もカメラの重さでしびれる左手も、どこか心地良さを感じました。実行委員会の皆さん、参加者の皆さん、幸せな時間をありがとうございました。(一)

津山自慢の斉藤さん。昨年取材した別の人のインタビューで存在を知り、お会いする機会を楽しみにしていました。知人も地縁もない津山に移住し、未経験の農業は大変な苦労だったと思います。移住して3年経った今では、地域に溶け込んで落ち着いた印象を受けました。今後の活躍を応援しています! (二)

※お詫び 広報津山8月号11ページの不妊治療・生殖補助医療支援事業の表「生殖補助医療の助成金額」

①②の「医療機関の領収書(受診証明書)に記載された金額から県の助成額を引いた金額」は、正しくは「医療機関の領収書(受診証明書)に記載された金額」です。お詫びして訂正します。